

『自動車事故マップについて』

本市における交通事故は、発生件数、負傷者数いずれも近年減少傾向にありますが、依然として厳しい状況が続いています。

市では、市民の皆さまに、事故が特に多い箇所や注意すべきポイントを知っていただき、事故を未然に防ぐことを目的に、昨年度作成した「自転車事故マップ」に続き、新たに「自動車事故マップ」を作成いたしました。

「自動車事故マップ」の概要

- 警察から平成 26 年～28 年までに発生した「自動車に関連する事故」のデータ提供を受け、41 小学校区ごとに作成しました。
- 事故の発生地点をプロットし、事故の形態(追突、出合頭、対自転車など)ごとに色分けし、発生場所による事故の傾向や注意すべきポイントを説明しています。
- マップと合わせて「データからみる交通事故の傾向」を掲載しています。ここでは、衝突地点別、類型別、時間帯別、年齢層別にグラフ化し、分析した事故傾向や注意すべきポイントを説明しています。
- 「41 小学校区分のマップ」「データから見る交通事故の傾向」「概要版」は、市ホームページで公開しています。

自動車(四輪車)事故マップ(平成26年~28年)

浜脇小学校区

国道2号線において、自動車同士の追突事故が多発しています。また交差点部分では、あらゆる種類の事故が多発していますので、ドライバーは細心の注意を払って走行してください。

国道43号線において、自動車同士の追突事故が多発しています。また交差点部分では、あらゆる種類の事故が多発していますので、ドライバーは細心の注意を払って走行してください。

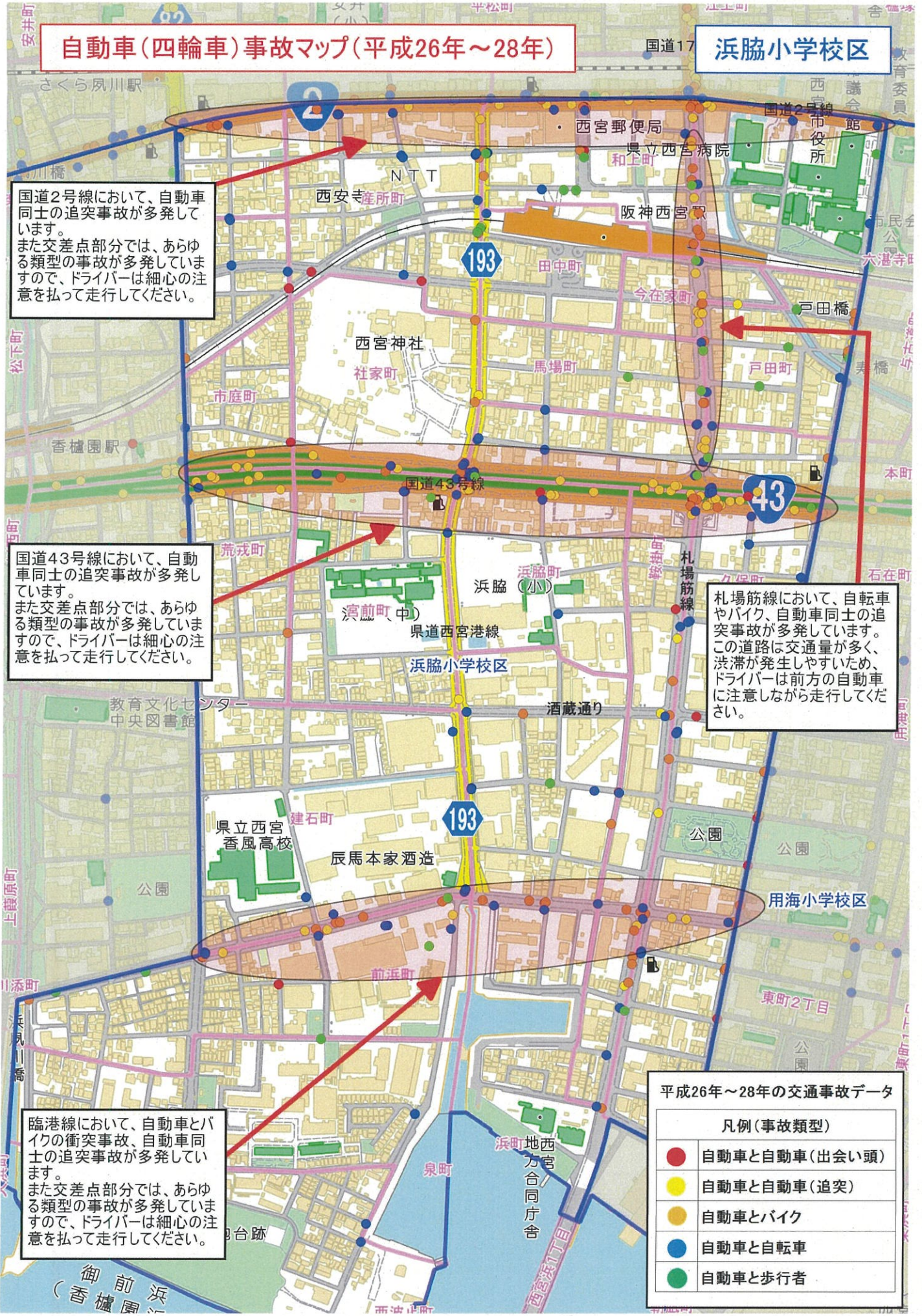
札場筋線において、自転車やバイク、自動車同士の追突事故が多発しています。この道路は交通量が多く、渋滞が発生しやすいため、ドライバーは前方の自動車に注意しながら走行してください。

臨港線において、自動車とバイクの衝突事故、自動車同士の追突事故が多発しています。また交差点部分では、あらゆる種類の事故が多発していますので、ドライバーは細心の注意を払って走行してください。

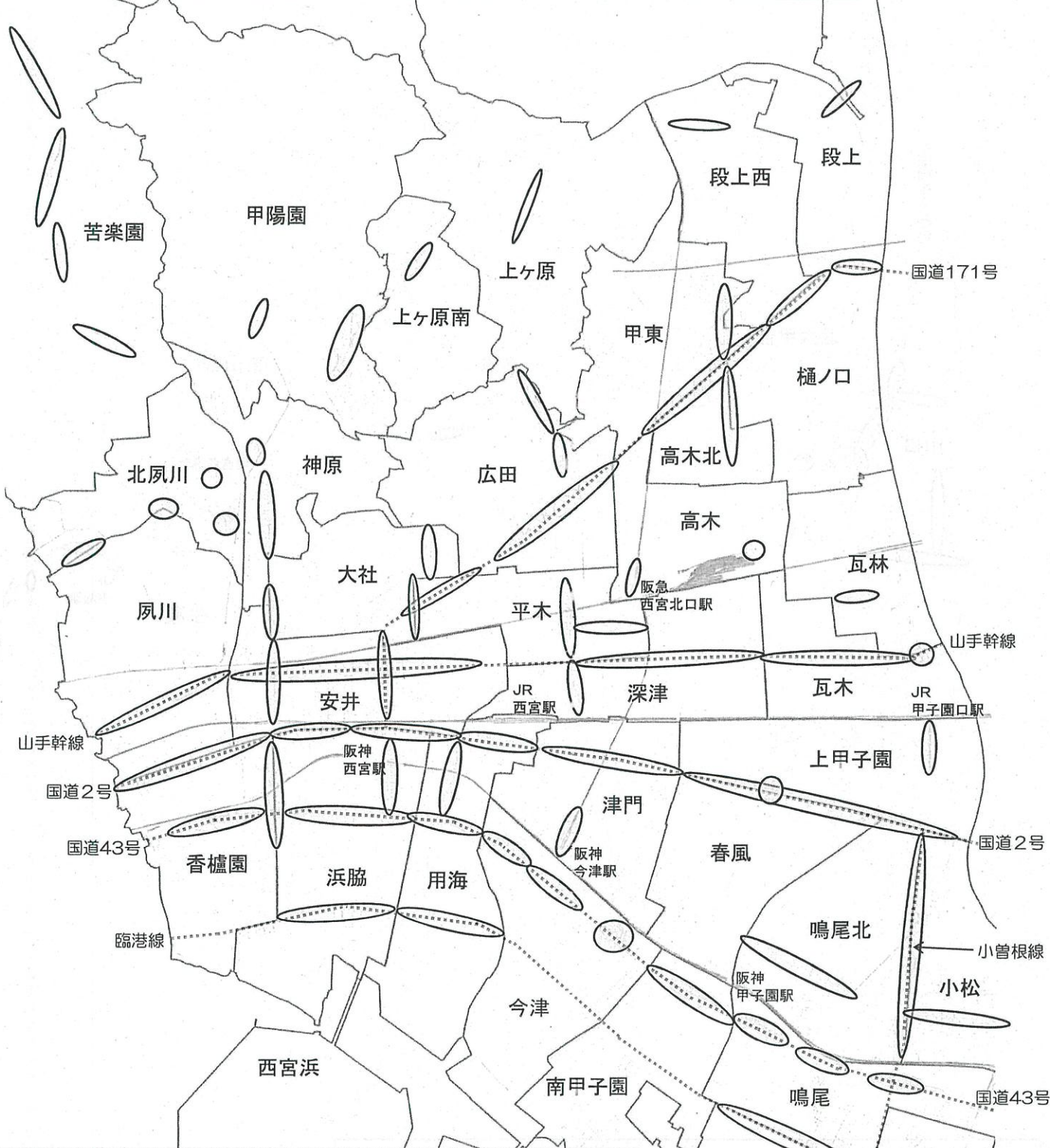
平成26年~28年の交通事故データ

凡例(事故類型)

●	自動車と自動車(出会い頭)
●	自動車と自動車(追突)
●	自動車とバイク
●	自動車と自転車
●	自動車と歩行者



自動車(四輪車)事故マップ概要版【南部】



自動車事故が特に多い箇所

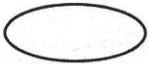
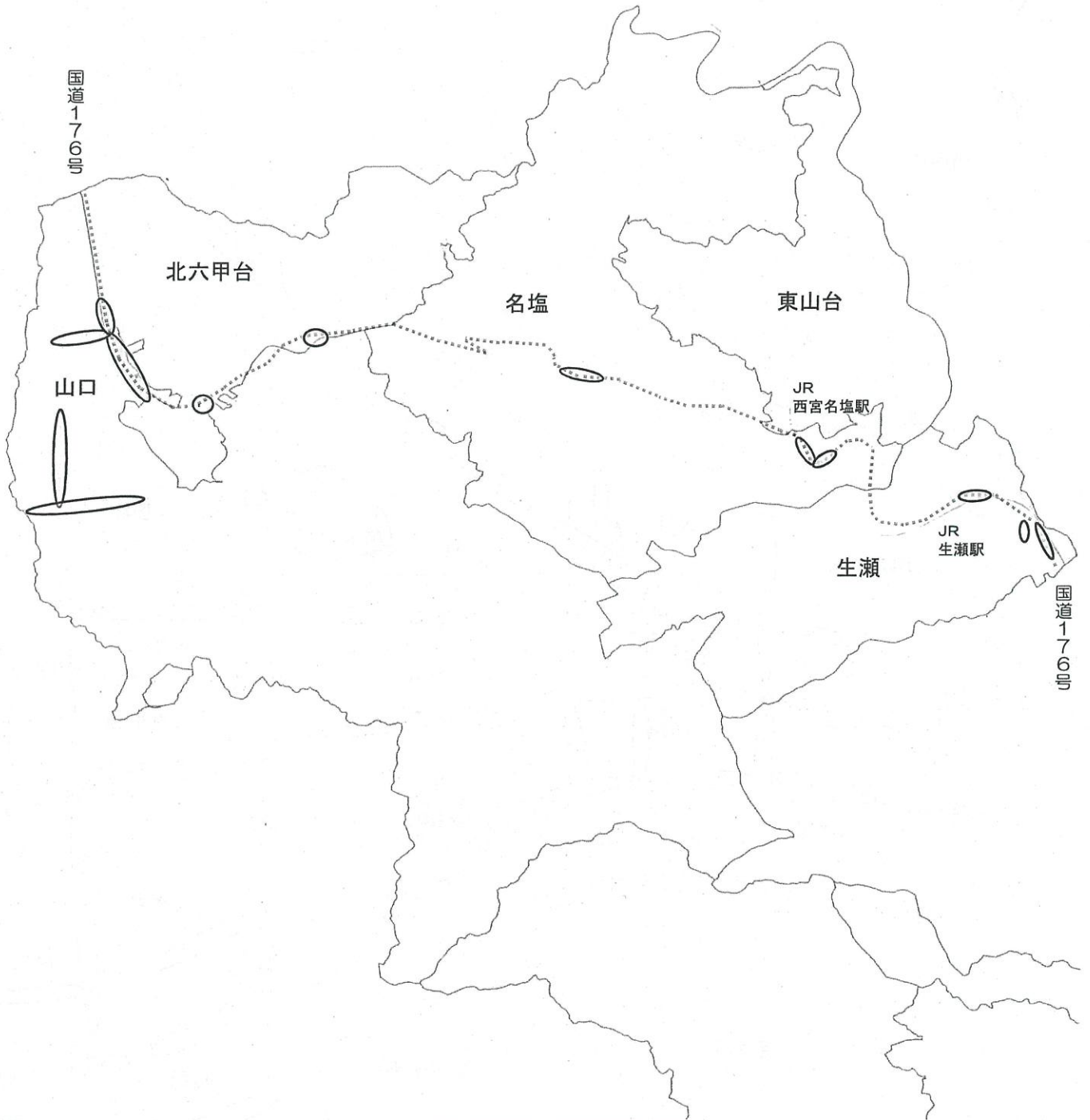
主な自動車事故のケース

- 幹線道路を走行する自動車同士の追突事故
- 幹線道路を走行する自動車とバイクの衝突事故
- 交差点における自動車と自転車との出会い頭事故

※小学校区別に、事故の発生ポイントや注意点を説明した詳細図を西宮市のホームページに掲載中（自動車事故マップで検索）→



自動車(四輪車)事故マップ概要版【北部】



自動車事故が特に多い箇所

主な自動車事故のケース

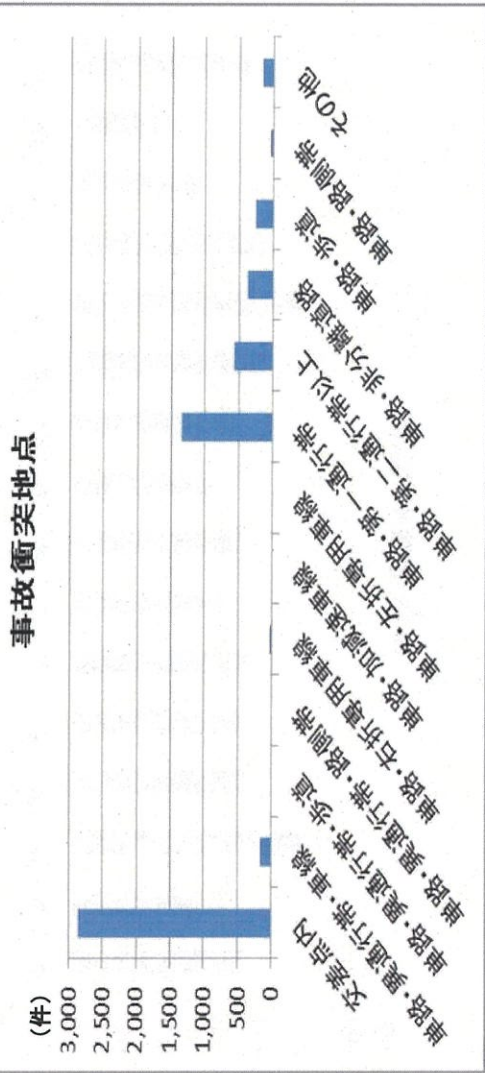
- 幹線道路を走行する自動車同士の追突事故
- 幹線道路を走行する自動車とバイクの衝突事故
- 交差点における自動車と自転車との出会い頭事故

※小学校区別に、事故の発生ポイントや注意点を説明した詳細図を西宮市のホームページに掲載中 (自動車事故マップで検索)→

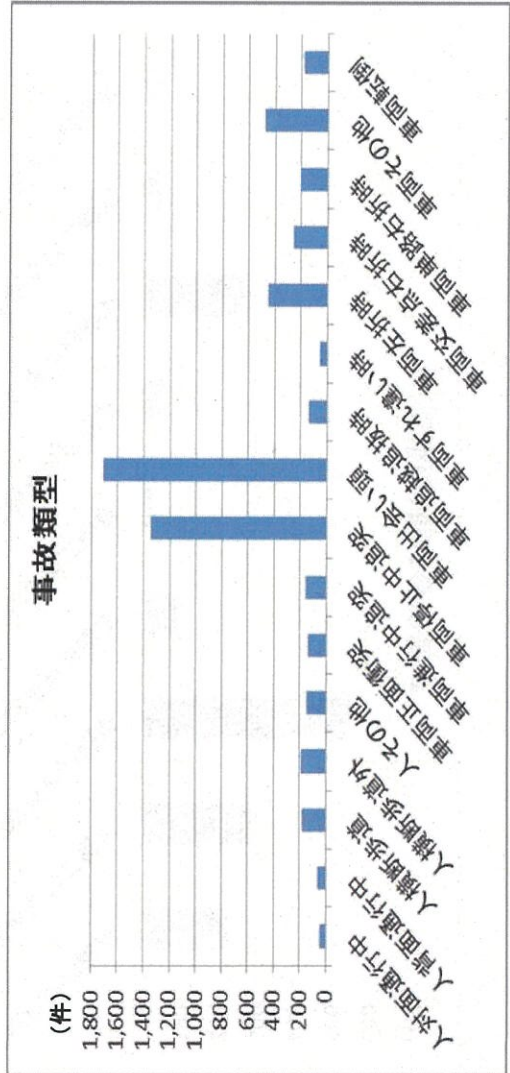


データからみる交通事故の傾向

(西宮市における平成26～28年の全交通事故データによる)

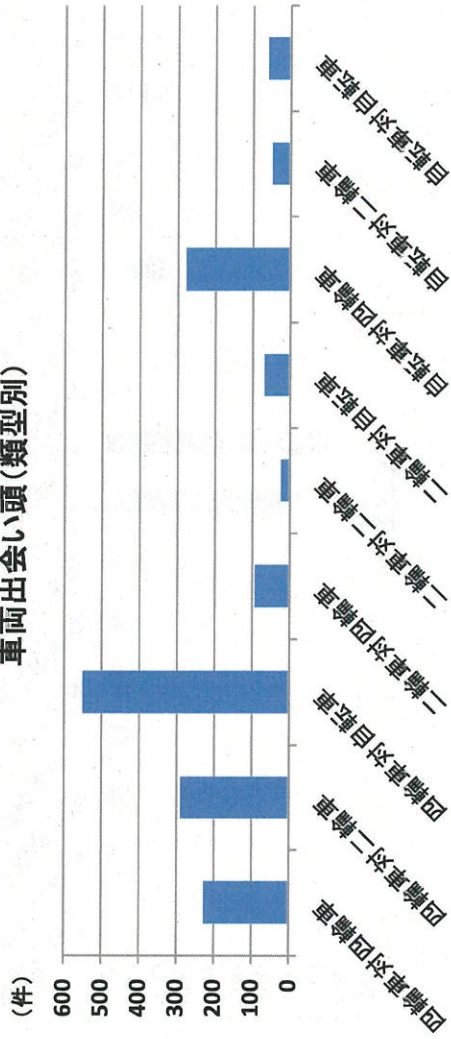


衝突地点では、**交差点内の事故が全体の約50%**を占めています。
 次の、**単路・第一通行帯**が多く、この2つを合わせると約**72%**に上ります。



事故類型では、**車両(バイク、自転車を含む)同士の出会い頭の事故が約30%**、**車両停止中の追突が約24%**で、この2つで半数以上を占めています。
 特に、**出会い頭の事故**については、大部分が**信号機のない交差点**で発生していると思われるため、一時停止標識のある交差点では必ず停止線の手前で一時停止するようにしてください。また、**優先道路**を走行中であっても、見通しの悪い交差点を通過する際には、急に**自転車や歩行者**が飛び出してきたり、**すぐに止まれるような速度**で運転するように意識してください。

車両出会い頭(類型別)



左のグラフでは、車両(バイク、自転車を含む)同士における出会い頭の類型別の交通事故発生件数を表しています。

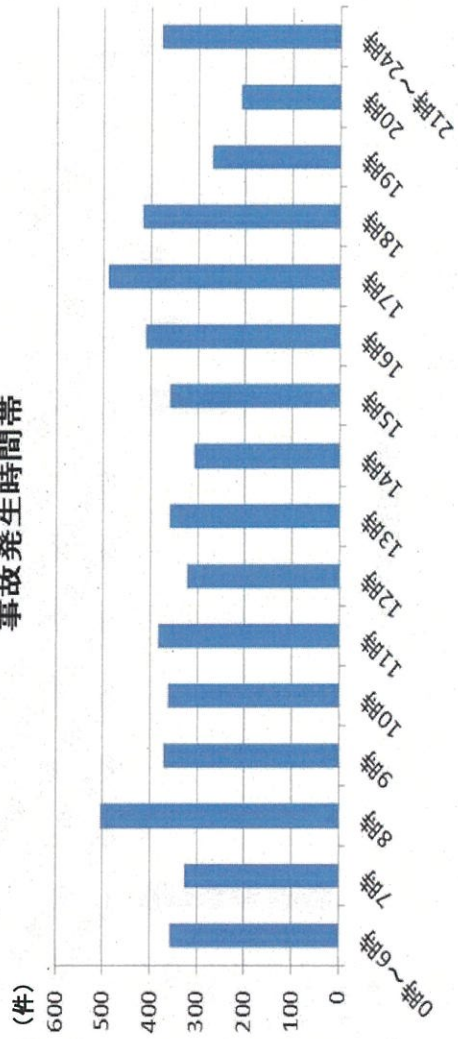
特徴として、四輪車と自転車が関係する事故が全体の約50%を占めています。この中で、自転車が第1当事者(加害者)となる割合が約33%となっています。

自転車利用者は、特に見通しの悪い交差点では、一時停止をするようにしてください。

【グラフの見方】

例) 自転車対四輪車…前者が第1当事者(加害者)、後者が第2当事者(被害者)

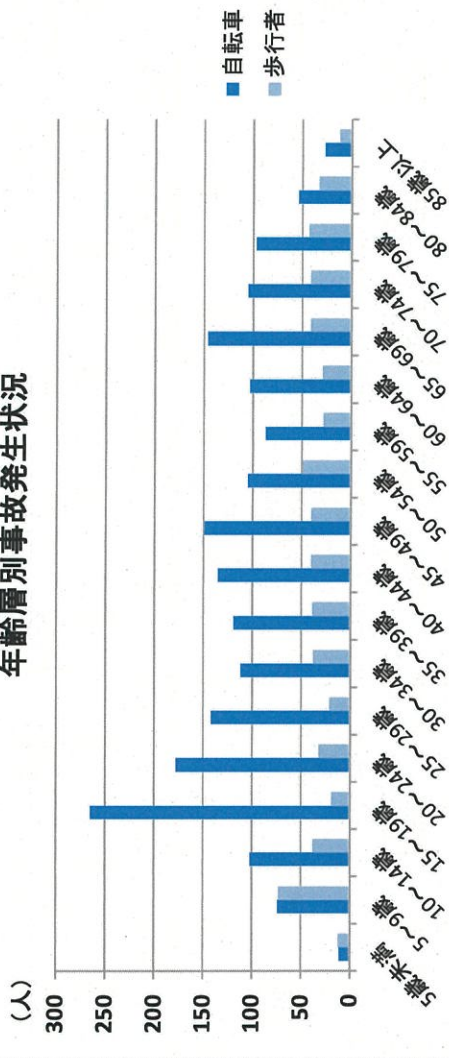
事故発生時間帯



事故発生時間帯では、通勤・通学時間帯である8時台と17時前後が多くなっています。

朝の時間帯は、自転車利用者は信号遵守やスピードを控えた運転をお願いします。また、夕暮れ時は、視認性が低下する時間帯であるため、ドライバーは早めのライト点灯や、歩行者はドライバーから目立つ明るい服装を心掛けたり、車のライトで光る反射材を活用するようにしてください。

年齢層別事故発生状況



左のグラフでは、自転車と歩行者が関係した年齢層別の対車両との交通事故発生状況を表しています。

特徴として、**自転車の15~19歳**が急に増えています。これは主に高校生で、自転車通学をする人数が増えたことが原因であると思われます。

歩行者については、**5~9歳**が一番多くなっています。これは、小学生になって一人で外出する機会が増えたことが関係していると思われます。また、**65歳以上の高齢者**が全体の約27%を占めています。これは、加齢等による身体機能の変化によることが原因であると思われます。